



## 栗小児童が障がい者スポーツを体験 土曜授業「くりっ子福祉教室」

栗山小学校土曜授業「くりっ子福祉教室」が、2月13日に行われました。猿払村地域交流課主事の依田大輝さんを講師に招いて、講話を実施。日ごろ目にする事のある、車いすマーク（国際シンボルマーク）がどういったところに付いているかなどをクイズ形式で説明しました。また、講話の後、障がい者スポーツ体験として、ボッチャやフライングディスクに挑戦しました。



## 免疫力UPでコロナに負けない体を 町民講座

町民講座が2月13日、総合福祉センター「しゃるる」で行われ、町民など約30人が参加しました。酪農学園大学との連携講座として実施。同大学の太谷克城教授が「免疫力を高める食事のポイント」について講演し、免疫力を高める効果を持つ食材を紹介。後半は、同大学の山口太一教授が「持久力と太ももを鍛えましょう」と題し、参加者はスクワット運動などを実践しました。



## ハンドメイドサークル「マザーズ」が出展 くりやまクリエイターズマーケット

栗山にちなんだ作品を出展、販売する「くりやまクリエイターズマーケット」に、2月10日から、町内のシニア世代のハンドメイドサークル「マザーズ」が特別出展しています。出展作品は手作りの帽子、バッグ、手袋など。初日は約40作品が展示販売され、3月14日までの期間中、エプロンなどの作品も追加販売される予定です。



## 栗小2年生が里山の冬体験 ふるさと自然体験

栗山小学校の2年生が、2月8日と10日、ふるさと自然体験学習をハサンベツ里山で行いました。スノーシューを履いて普段歩くことのできない雪の上を散策し、ハサンベツの生き物の足跡や木の種を実際に見るなどの体験をしました。スノーシュー体験の後、子どもたちは里山センターの奥に作った雪山でそり滑りをして、里山の冬遊びを満喫しました。



## まちの賑わい創出・活性化に向け くりやまハーフマラソン実行委員会発足

くりやまハーフマラソン実行委員会の設立総会が2月16日、総合福祉センター「しゃるる」で開催されました。「くりやまマラソン」の終了に伴い、町の農・商・工・観光が一体となって盛り上げる「くりやまハーフマラソン大会」として新たに生まれかわります。大会は8月29日(日)を予定し、新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、5月末までに開催を判断。開催する場合は、6月よりランナーの募集を行います。



## お菓子のおはなし大集合！ 図書館でバレンタインイベント開催

町図書館で2月14日、図書館職員によるおはなし会「お菓子のおはなし大集合！」が行われ、11人が参加しました。バレンタインデーに合わせて企画され、同職員がお菓子に関する絵本2冊のほか、大型絵本の読み聞かせをしました。また、歌に合わせてキャラクターが登場するパネルシアターでは「ほっぺがおちるよ」が歌われ、参加した子どもたちも楽しそうに歌っていました。



## いじめ0を目指し取り組みを 栗山子ども会議2021

栗山子ども会議が2月12日、総合福祉センター「しゃるる」で行われ、町内の小学生から高校生、北海道介護福祉学校生が参加しました。9回目となる今回は、新型コロナウイルス感染症対策として、小中学生はオンラインで参加。各学校のいじめ撲滅に向けた取り組みを紹介したほか、学校ごとにいじめ防止についての話し合いを行い、発表しました。



## 栗山にも残るアイヌの歴史 栗山中学校でアイヌ文化学習

栗山中学校で2月12日、アイヌ文化学習が行われ、2年生66人が参加しました。NPO法人雨煙別学校の高橋慎理事がアイヌ語が語源となった地名などについて講演。また、アイヌ協会講師3名が、アイヌの人権や衣食住について講演したほか、アイヌが伝承する歌や、伝統楽器であるムックリとトンコリの演奏を披露。生徒たちは、歌に合わせてアイヌの踊りを体験しました。

